

FUTABA

第104期(2018年3月期) 決算説明資料 新5カ年計画の進捗

代表取締役社長 吉貴 寛良

2018年5月16日
フタバ産業株式会社
(#7241)

・新5カ年計画の進捗

1-1 新5カ年計画の概要

1-2 2016年度の実施事項

2-1 2017年度の実施事項

2-1-1 疑似事業部制の効果

2-1-2 生産拠点の最適化

2-1-3 新技術・新事業

2-1-4 フタバの品質保証体制

2-1-5 働き方改革・人材育成

3-1 2018年度方針

2018年(2019年3月期)連結売上高と営業利益率

1-1 新5カ年計画の概要

2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
体制整備	計画の確実な実施	計画の確実な実施	計画達成の目途付け	計画達成

「よい品、より安く」を基本とした
新たな成長ステージ

基本姿勢

将来にわたり、成長性が期待できる分野へのリソースの重点投入と、収益性が期待できない分野の見直しを通じて、会社としての継続的成長を目指す

基本方針

- 「安全、品質、ものづくり」の基本の徹底
- 安定した収益確保のための構造改革と原価マネジメントの強化
- 拠点最適化と経営資源の効率的な配分
- コア技術の更なる進化と新規分野への活用
- 人材育成と組織力の強化

目指す姿

「挑戦する人の
集団」

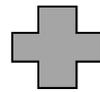
「モノづくりで
社会に貢献」

「新しい価値を
世界へ提供」

1-2 2016年度の実施事項

経営の意思決定プロセスの見直し

これまでの
現場を中心とした**ものづくり改革**



< フタバ産業 第2ステップへ >
マネジメント改革
— 経営判断の迅速化 と 責任と権限の明確化 —



見直しの方針

収益管理構造、および
組織の見直し

✓収益責任が明確になる
仕事のしくみへ
(事業の設定と各事業での
収益管理の徹底)

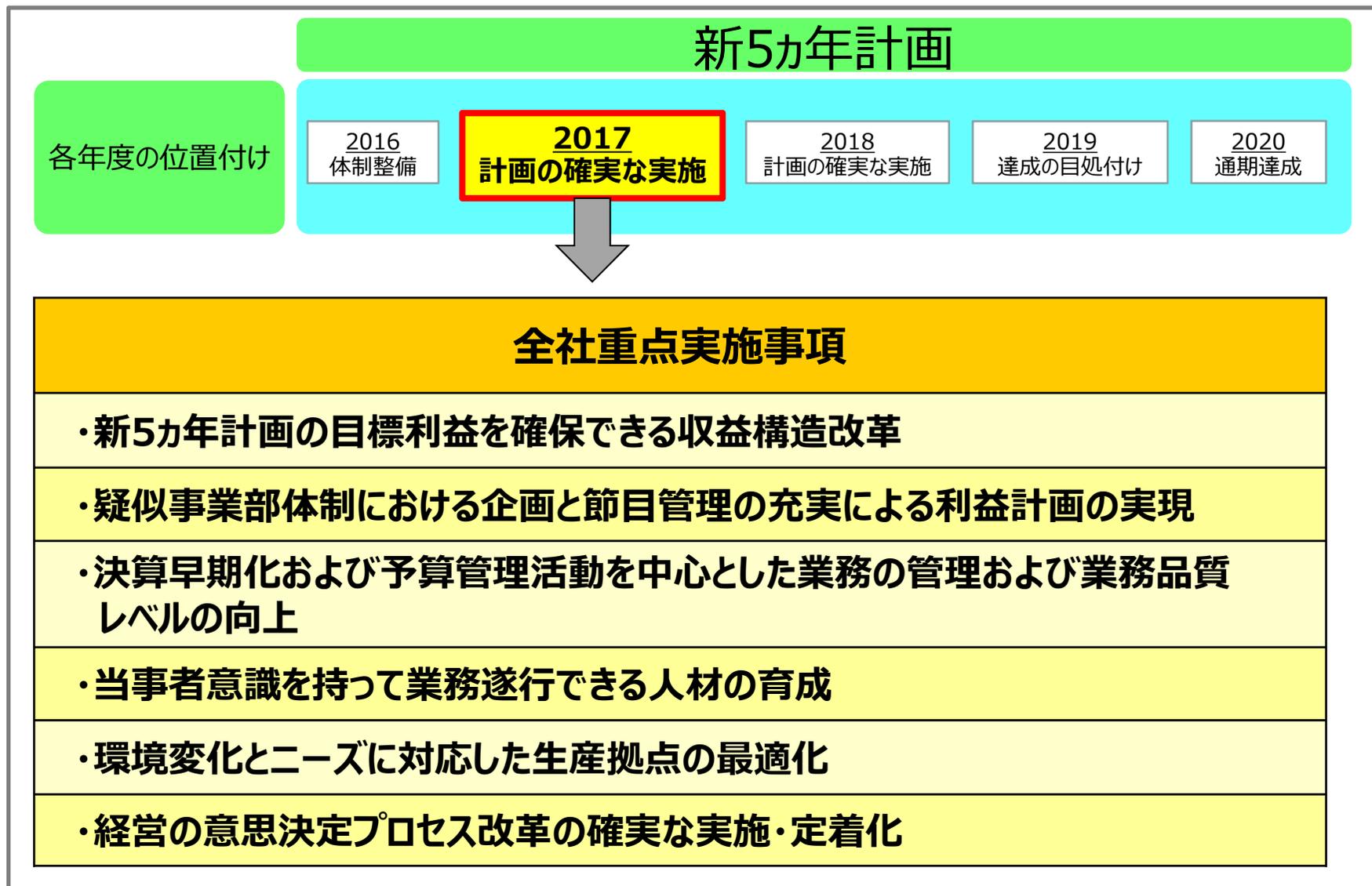
上位会議体、および
工程/機能会議体の見直し

✓報告・情報共有の為の会議と
決めるための会議に全社会議体
を整理し、位置付けを明確化
✓連携できる会議関係へ

仕事の進め方、および
決裁方法の見直し

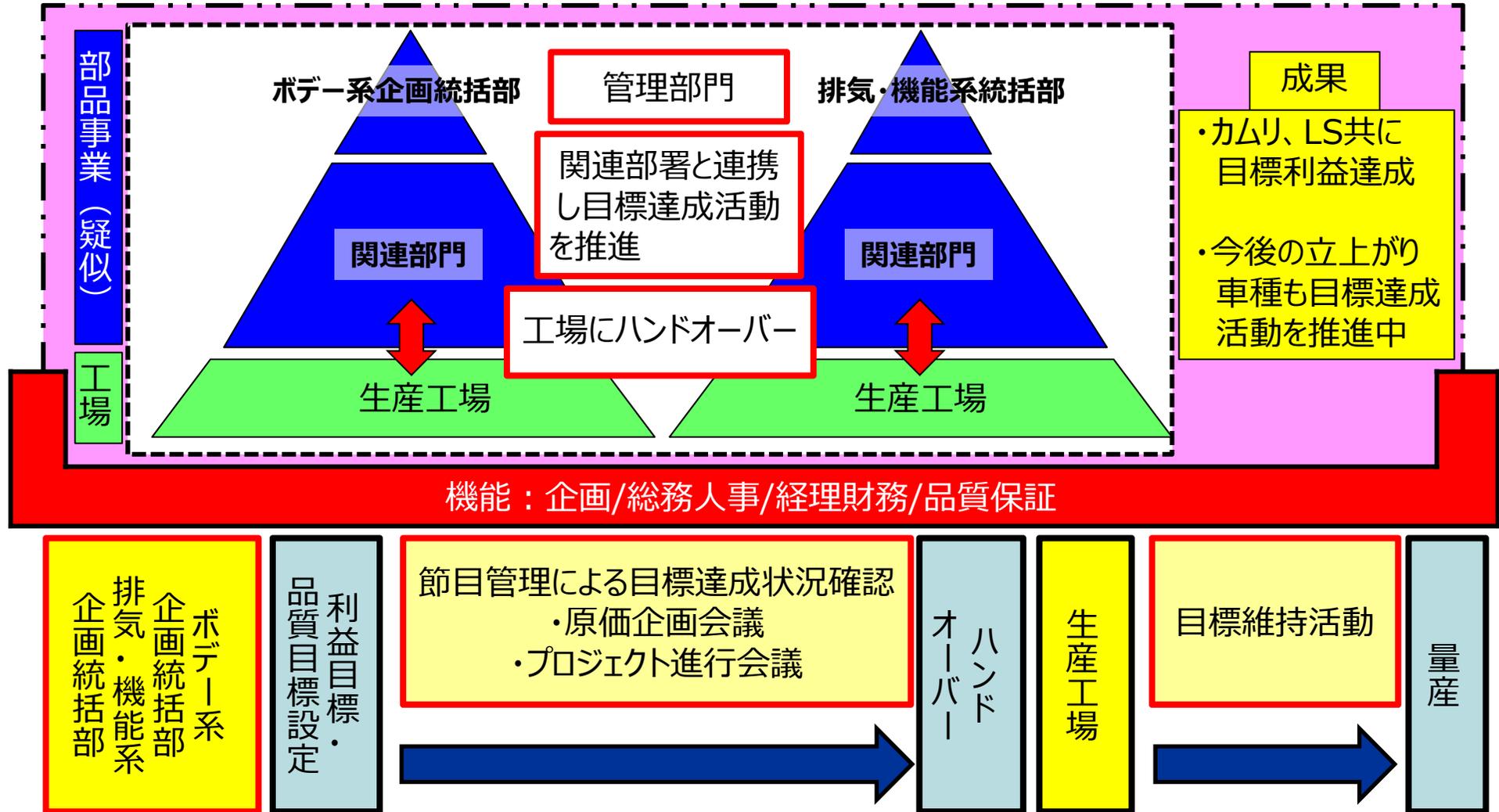
✓仕事(企画)の決裁があり、
その上でお金(支払)の決裁がある
仕事の進め方に変更。稟議制度
の廃止とライン決裁を基本とした
決裁プロセスへ変更

2-1 2017年度の実施事項



2-1-1 疑似事業部制の効果

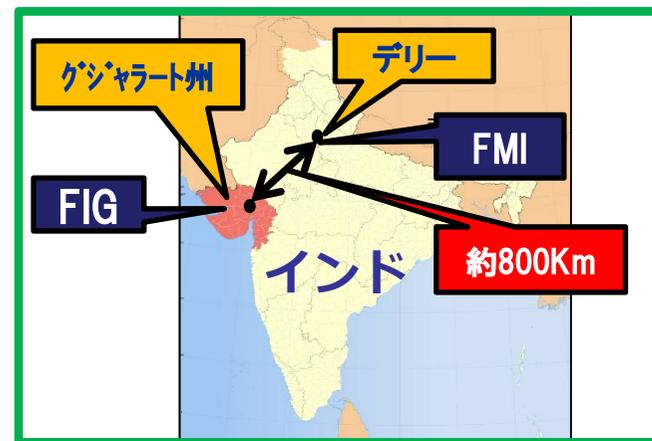
・ボデー系企画統括部/排気・機能系企画統括部による部品事業（疑似）管理



2-1-2 生産拠点の進捗

・インド第2拠点 FIG(Futaba Industrial Gujarat)の進捗

〈概要〉	
敷地面積	約20,000m ²
従業員	160名(2020年度計画)
生産開始	2018年8月(予定)
ロケーション	スズキ(株)様グジャラート工場 サプライヤーパーク内
生産品	排気管/エキゾーストマニホールド



・FMI(FMI Automotive Components)
2008.8月生産開始



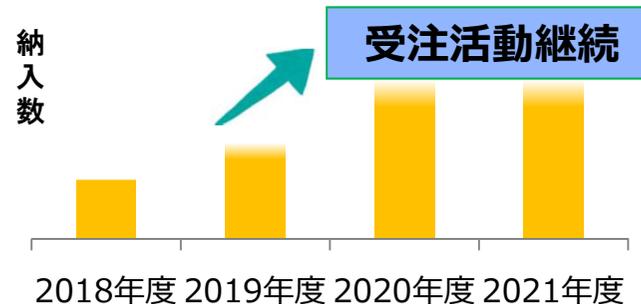
'18年3月工場完成



トライ完了

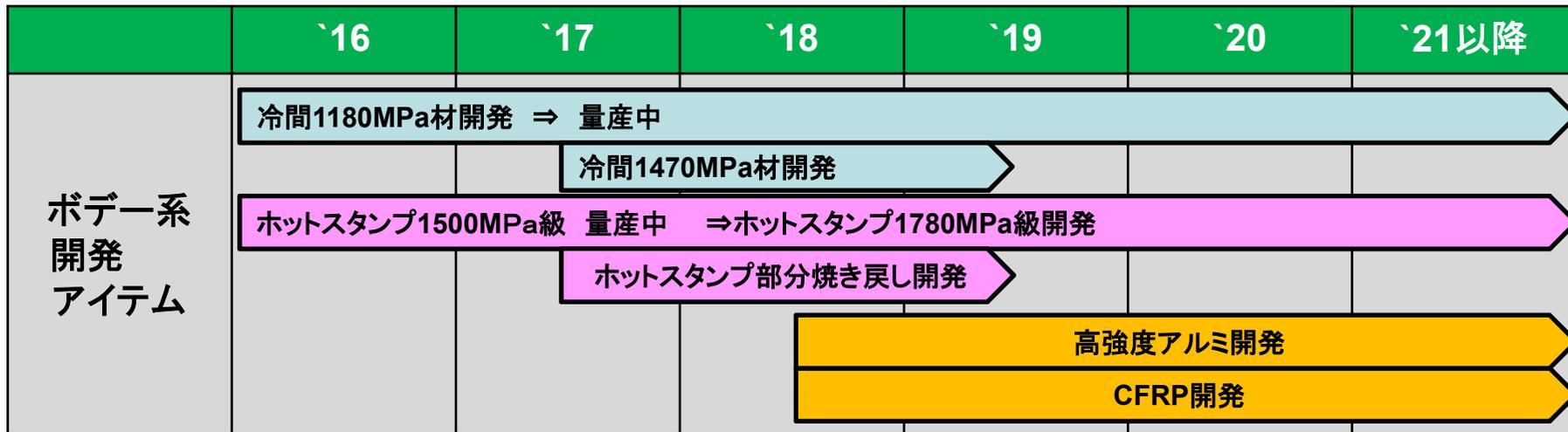
生産量

・スズキ(株)様発表の75万台を確保すべく活動を継続していきます
決算説明会では、生産量について誤解を招いた可能性がありますので、追記いたしました



2-1-3 新技術・新事業

・ボデー部品のシナリオ

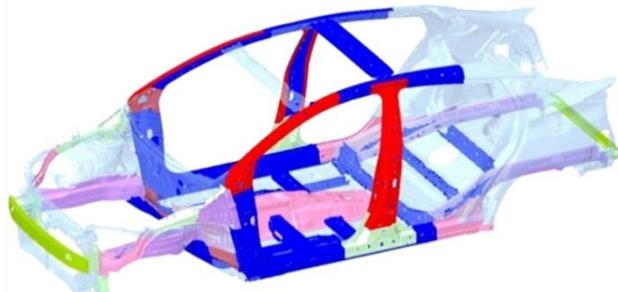


‘18年量産車以降のハイテンシナリオ

⇒

将来のシナリオ

赤:ホットスタンプ1470Mpa材
青:冷間1180Mpa材



鉄へのこだわり

- 270MPa
- 440MPa
- 590MPa
- 980MPa
- 1180MPa
- ホットスタンプ
- アルミ

難成形品のホットスタンプ1780Mpa以上化
冷間1470Mpa材の多様化

マルチ
マテリアル
対応

プレス加工開発
接合開発
高強度化

2-1-3 新技術・新事業

・ホットスタンプライン導入工場及び進捗

・六ツ美工場：既存2ライン稼働中(2015.9月～)

生産品目：フロントピラー、キック リンフォース、レールアッパー

・幸田工場:第1ラインは5月から生産開始

第2ラインは10月稼働に向け準備中



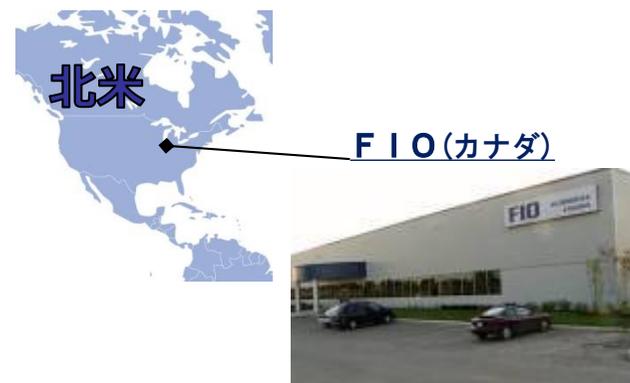
生産品目：フロントピラー、ダッシュフロア、センターピラー



・FIO:第1ライン、第2ライン共に、

2018.11月稼働に向け準備中

生産品目：フロントピラー、ダッシュフロア、他



2-1-3 新技術・新事業

・ 冷間超ハイテン開発状況

取組み背景・客先ニーズ

- ・冷間1180Mpa級素材は量産化拡大。更に1470Mpaの開発ニーズに対応
- ・既存プレス設備で生産する事を前提とし、新規投資を抑制の嬉しさ
- ・業界に量産活用事例が極めて少なく、部品加工技術確立で優位に立つ

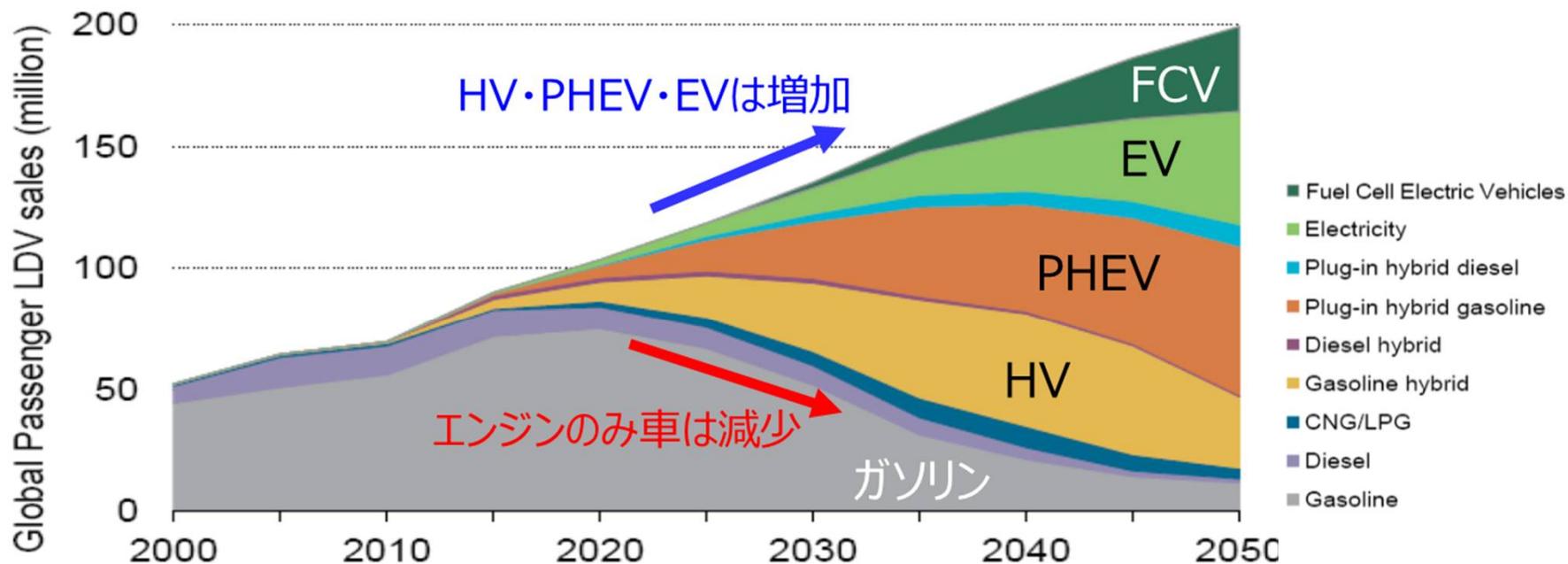
	従来品 (ホット+冷間)	開発品 (冷間)
構造		
質量	100	85
生産性	100	300(ホット比較)

克服課題と今後

- ・材料が伸びない為割れやすく、寸法精度確保に時間がかかる (ホットスタンプに比べて極めて困難)
- ⇒工法確定の解析に重点を置き、精度確保時間の短縮と材料特性に合わせた加工技術確立
- ⇒超ハイテンの最適棲み分けの手の内化 (ホットスタンプ、冷間ともに更なる高強度化)

2-1-3 新技術・新事業

・電動化の市場方向性



出典：IEA(INTERNATIONAL ENERGY AGENCY) Energy Technology Perspectives 2012

- 2020年を起点に、エンジンのみの車は減少し、HV・PHV・EVが増加していく
- 2040年まではエンジン付車は増えていくと予想されるが、それ以降の方向性は不透明

2-1-3 新技術・新事業

・フタバの電動化対応方針

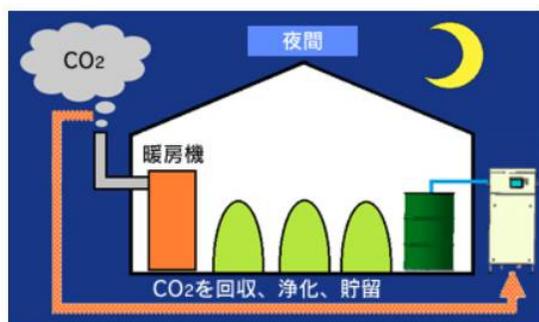
- **2040年目線**で規制強化や電動化に向けた**開発ロードマップの見直し**を実施
- **電動化商品の企画・開発を担当する組織**の立ち上げによる開発体制の強化と**研究開発費の増額**による開発投資の強化
- パワートレーン系部品は、CO₂削減、ゼロエミッションに貢献する**排気系商品の開発強化**
- ボデー系部品と**電動化機能部品の統合・一体化**による付加価値の向上

上記の対応方針により開発ロードマップの深堀りと具現化を目指す

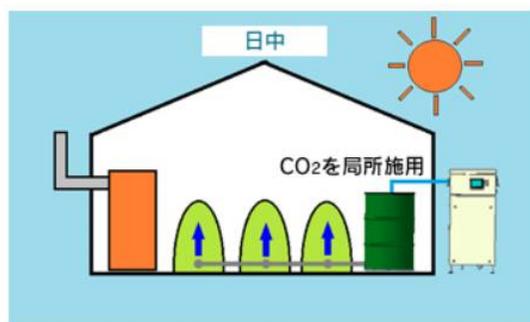
2-1-3 新技術・新事業

・農業ハウス栽培用CO₂貯留・供給装置（農業事業）

2017年11月1日から農業装置を「agleaf（アグリーフ）」と命名し、一般販売を開始



夜間：暖房機の排ガスを浄化して貯留



日中：貯留したCO₂を植物に供給



制御ユニット(左) 吸着タンクユニット(右)

自動車業界で培った当社のコア技術に応用したシステム

排ガス浄化

ガス吸着

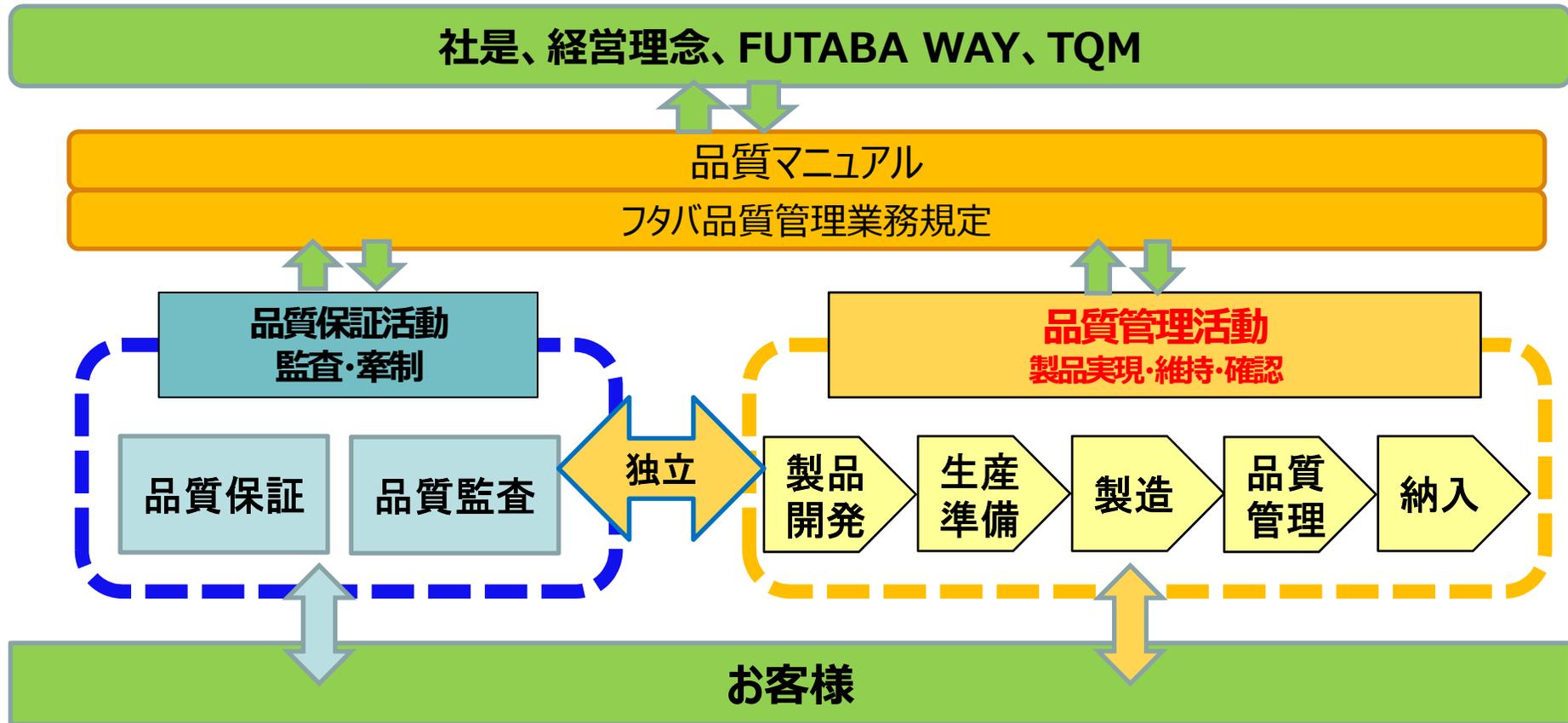
熱マネジメント



2017年にモニターを行った農家や新規のお客様からの受注を頂いており、また多くの農業関係者からのお問合せを受け、販売店と協力して受注活動を推進中

2-1-4 フタバの品質保証体制

社是、経営理念の実現のために、お客様とのコミュニケーションを大切にし
FUTABA WAYのもと お客様に安心して使っていただけるよう取り組んでおります



ISO/TS 16949:2009認証⇒※IATF16949:2016に移行済み(2018.1月)

※自動車産業の新しい品質マネジメントシステム規格

2-1-5 働き方改革

・2018年度全社規模での生産性向上活動

- ・製造部門 : ものづくりで生産性向上推進 **継続**
 - : 現場間接業務のIT化（タブレット導入済）の定着 **継続**
- ・間接部門 : 働き方改革の旗のもと、総労働時間抑制の取組み **継続**

・2018年度働き方改革の取組み

- ・ **非付加価値業務を削減、付加価値業務に時間をシフト** **継続**
 - ・業務プロセスを見直すことで効率を上げる（≒残業規制）
 1. 業務プロセスの見える化と標準化を実施し、業務品質を上げる（TQM活動）
 2. ムリ・ムダ・ムラを減らし業務を平準化
 - ・新人事システムの導入 **新規**
 - 課長による精緻な業務時間管理、負荷調整(人的リソースマネジメント)

⇒ 総労働時間を抑制し、メリハリのある働き方を実現

2-1-5 自ら考える人材の育成

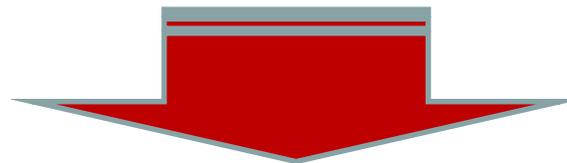
【OFF-JT】

	2017年度	2018年度
人材教育	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決研修 (課長以上) ・階層別教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・係長以上へ拡大 ・継続
FUTABA WAY	階層別教育の織込み	・継続
業務品質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・トヨタ式マネジメント研修 (部長以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・課長以上へ拡大 ・トヨタ式業務改善 (TQM、自工程完結)

【OJT】

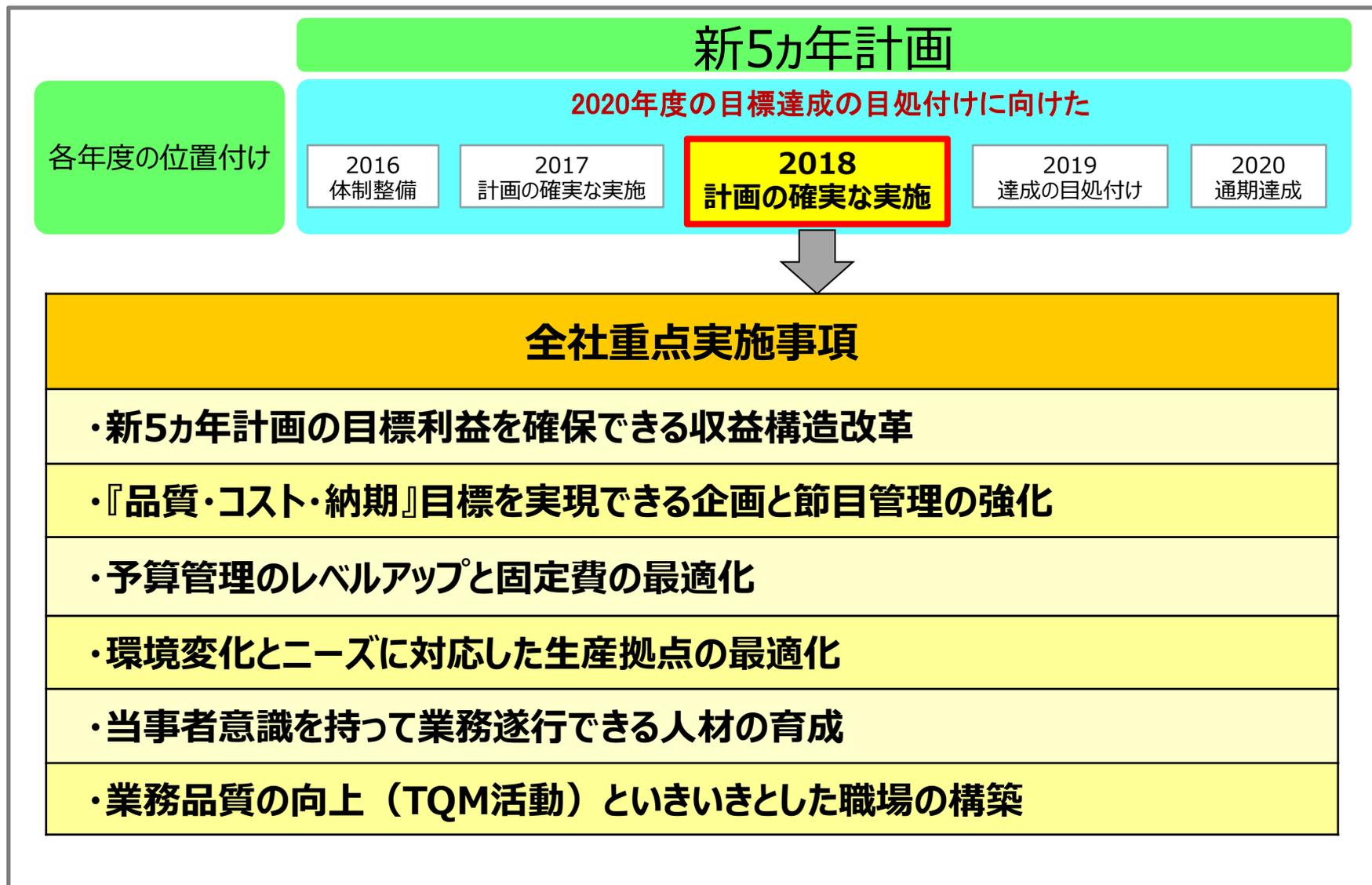
グローバルで通用する人材育成

1. 当事者意識を持って業務に取り組む
2. 仕事の意味を理解する
3. 自分で考え行動する
4. 悪い情報ほど優先的に報告する
(BAD NEWS FIRST)

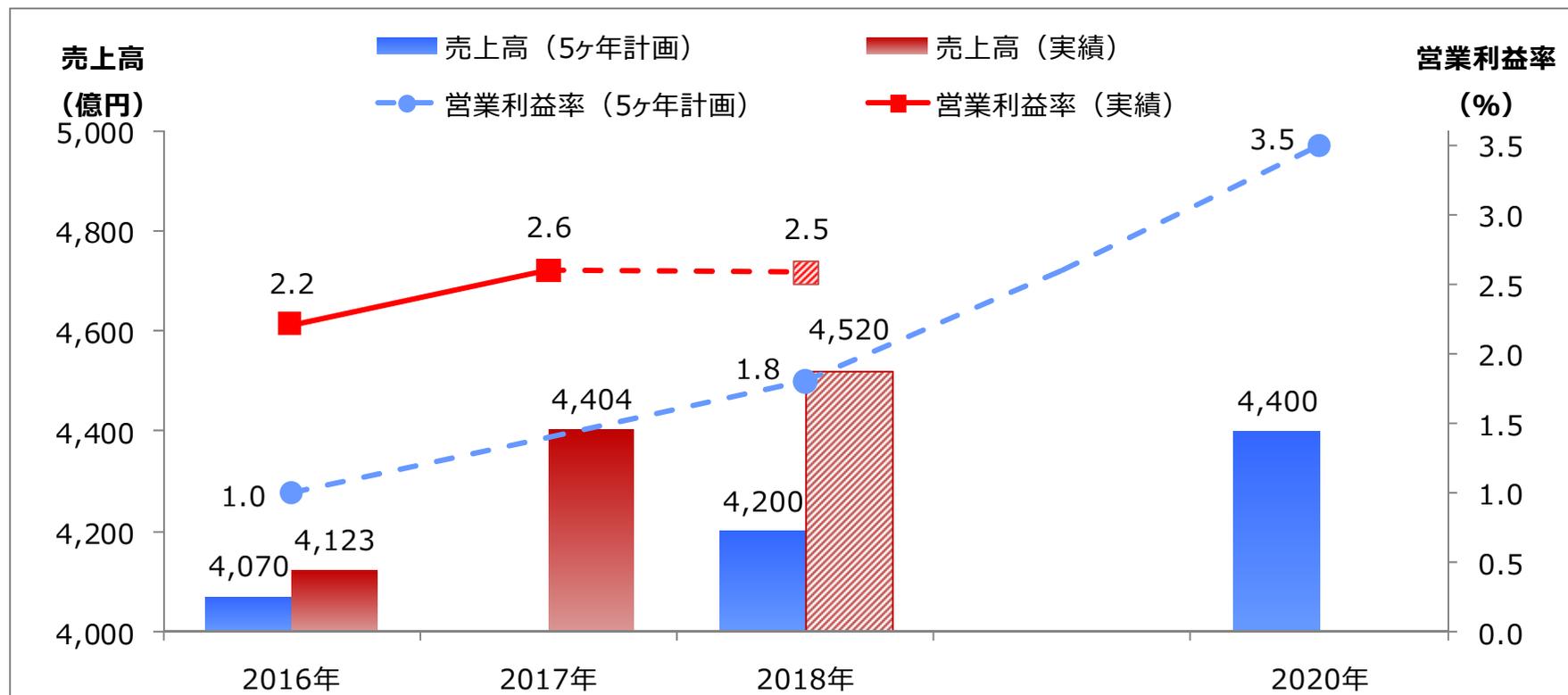


学習し成長する組織

3-1 2018年度方針



3-1 2018年(2019.3月期)連結売上高と営業利益率



2018年は2020年の目標達成を確実にする活動を実施